

所属学科：理工学研究科

氏名：三谷 和織

派遣期間：2014年8月15～2014年9月1日

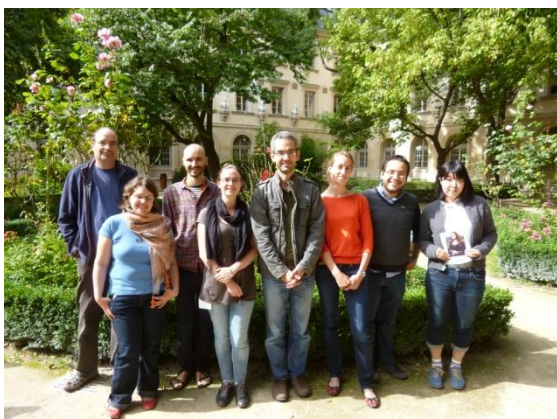
派遣先：フランス エコール・ノルマル・シュペリウール

今回このプログラムに参加した目的は、パリにあるÉcole normale supérieureの教授で私が研究で使用しているGINsimというツールの開発者であるThieffry教授を訪問し、同じツールを用いて学んでいる人たちがどのような研究をしているのか知識や技術を実際に現地で見学することでした。

派遣にあたっての準備は、誰かが手配してくれるものではなく全て自分で行いました。全て英語で行われる派遣先の教授との連絡のやり取りや、宿泊先、渡航の準備等、派遣前から貴重な経験をする事が出来たと思います。

派遣先であるThieffry教授の研究室の方々には、とても優しく迎え入れて頂きました。私の研究について貴重な意見をたくさん頂き、二週間で様々な知識を身につける事が出来たと思います。なかでも、一番印象に残っている事は今まで参考にさせて頂いていた論文の著者の方に直接質問が出来た事でした。

また、研究以外の事でも、お昼御飯には色々なお店に連れていってもらったり、ルーヴル美術館のガイドや休日の観光プランを一緒に考えてくれたりと、大変お世話になりました。派遣先でのコミュニケーションの取り方は、私にとって大きな悩みでした。しかし、私のつたない英語も一生懸命理解しようとしてくれるし、私が会話を聞き取れていないとわかれば簡単な言い回しに変えたり、紙に書いてくれたりと、とても助けて頂きました。これは、研究室の人達だけに限らず店員さんや駅員さん等、フランスで会った方々はみなさん優しい英語で話しかけてくれました。このように滞在中は毎日、日本では絶対にあり得ない日常生活で使われるリアルな英会話をする事が出来ました。



Thieffry 研究室の皆さんとの集合写真

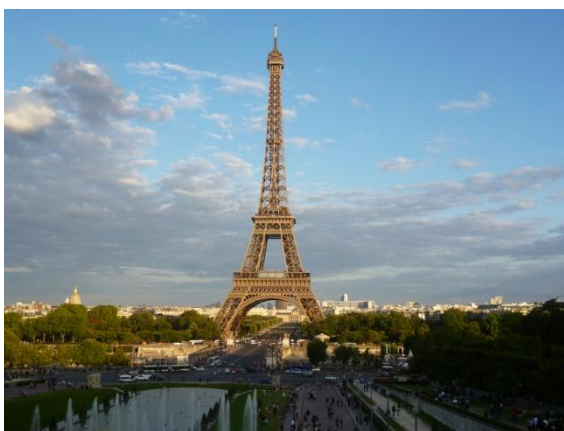


ルーヴル美術館のルーヴル・ピラミッド

平日は朝から夕方まで研究室へ行き、夕方から夜にかけては毎日どこか観光に出掛けていました。私の滞在先はパリ市内だったので、地下鉄を使えば多くの観光名所を訪れる事が可能でした。私が滞在中に行くことが出来た観光名所は、エッフェル塔、凱旋門、ルーヴル美術館、コンコルド広場、ノートルダム大聖堂、モンマルトル等です。他にも、教会や広場など多くの場所を見て回る事が出来ました。

また、休日は地下鉄とは異なる RER という高速郊外鉄道や高速バスを使用してパリ郊外にあるモン・サン・ミッシェルやヴェルサイユ宮殿等へ行く事が出来ました。モン・サン・ミッシェルは昔から行ってみたかった場所の1つだったので、到着したときには大感動しました。何よりも自分で一から観光計画を立てて目的地にたどり着いたという達成感は、素晴らしいものでした。

以上のように、プログラムに参加したお陰で様々な知識や経験、感動を得る事が出来ました。プログラムを終了してから思うと、実際に派遣されるまでの準備が一番重要だったと思います。研究内容や言語、派遣先での生活や観光についても、準備した量と比例して充実度が変わってきます。最後に、このプログラムに参加して得られた自信は何物にも代え難いものだと思います。今後も派遣先で得られたものを最大限に活かせるよう、日々研究に勤しんでいきたいと思っています。



夕方に撮影したエッフェル塔



モン・サン・ミッシェル